

第 11 回独立行政法人農林漁業信用基金漁業災害補償関係業務運営委員会 議事概要

1 日時及び場所

- (1) 日時 令和 3 年 2 月 24 日 (水) 10 時 35 分～11 時 35 分
- (2) 場所 東京都港区愛宕 2-5-1 愛宕グリーンヒルズ MORI タワー28 階
農林漁業信用基金 大会議室

2 出席者

※新型コロナウイルス感染症に伴う緊急事態宣言下において東京都が緊急事態措置の実施地域となっていることから、信用基金側出席者と運営委員会の委員長以外の委員はオブザーバーの神田漁業保険管理官含めウェブ会議形式での参加であった。

(1) 運営委員

出 資 者：古寺委員、成田委員、畠山委員、本多委員

学識経験者：市川委員、亀田委員、竹田委員、山下委員（出資者・学識経験者別 五十音順）

(2) 信用基金

今井理事長、森島副理事長、深水総括理事、小林理事、廣山理事

(3) オブザーバー（主務省）

神田水産庁漁政部漁業保険管理官

3 提出議案

(1) 審議事項

令和 3 年度年度計画（案）について

(2) 情報提供

①漁済連に対する貸付状況と今後の貸付けの見通しについて

②各県域における漁業の最近の被害状況（新型コロナウイルス感染症及び年明け以降の降雪の影響など）、漁済連及び共済組合からの共済金や積立ぶらすの支払状況について

(3) その他

4 議事経過の概要及びその結果

上記 3（1）の議案について信用基金から説明がなされた。また、上記 3（2）において信用基金から資料に沿って説明がなされた後、審議が行われ、原案どおり承認された。各委員から地元等における最近の漁業の被害状況等について情報提供がなされた。運営委員からの主な発言等は以下のとおり。

【発言等】

(1) 審議事項

令和 3 年度年度計画（案）について

○ 原案どおり承認

(2) 情報提供

○ 新型コロナウイルス感染症拡大の影響による魚価安もあるが、多くの魚種での不漁が大きく、共済および積立ぶらすで過去最大の支払見込となっている。また、養殖業などでは令和 3 年度の支払に影響するものもあり、厳しい状況が続く見込み。

○ そのような中、信用基金の再共済金の支払原資の貸付は極めて重要であり、今後とも制度の円滑な運用のため尽力いただきたい。

以上